

文庫あれこれ◆夜半からちょっとした暴風雨です。姫沙羅の木が大きく揺れています。早寝して日が変わったころから文庫便りを作り始めました。夕暮時は虫の音楽界だったのに。今年は5周年でイベントや文集作りが終わってほっとする間もなく、関係している組織の仕事があり、やっと9月彼岸ころそれも終わったと思って一息したかったのに色々あってちょっと疲れ気味です。おまけにじてんしゃで転んで膝を強打し、2週間経つのに、痛みは癒えず階段の上り下りに苦慮しています。こうなってやっとわかるのが、体の不自由な方のこと。薬飲んでも血圧もさがらず、いささか憂鬱なこの秋です。◆10月、日本でもすっかり定着しましたハロウィーンの季節です。幼いころ住んだアメリカで味わったのが忘れられないかして、わが家の子どもたちは仮装したりお料理をつくったりして未だに10月31日万聖節の前の晩を楽しみます。アメリカにいる娘が幽霊列車の模型とジャンキーフーズを送ってくれました。◆処かかってメキシコでは、そのころは、死者の祭りで、人々は日本のお盆のように、お墓に向いて死者が帰って来るのを夜通し待ちます。お盆もお彼岸も行けなかったので、10月に入ってからお花参りしました。わが家は多磨と小平と富士霊園三箇所にあります。全部回るのは骨ですが、やはり、墓参は心を鎮め、清冽な気持ちにさせてくれますね。◆さて、今夕は「秋の夜長のおはなし会」です。会員の吉川さんの朗読が今から楽しみです。吉川さんの澄んだ声にお人柄が加わって、私たちが気持ちのよい世界へ誘ってくれます。また、今日は、東京からささらを使いながら語ってくださる横山さんが来てくださいます。「しのだ妻」。しのだの森の白狐が助けてくれた安倍の保名と夫婦になってあの陰陽師で名高い安倍清明を生むのですが、化身がわかってしのだへ戻って行く……。私たちが語るいつもの世界とまたちがって幽玄の世界を楽しんでいただけたらと思います。おはなし・沙羅の仲間も語ります。お誘いあわせておいでください。昔、日本舞踊をやっていた時期があって、恋に狂った保名を踊ってみたいと思ったものでした。◆本当に今日は台風なのでしょう。外は荒れています。でも、読書の秋、みなさんのお出でをお待ちしています。(西村)

◆これからの催し物◆

10月

秋の夜長のおはなし会：ゲストによる朗読・語りC
10月15日(土) 17:00~19:00

1部
詩・「いま始まる新しいいま」(川崎洋作)
語り・三年峠(韓国の昔話)
語り・じいさん いるかい(日本の昔話)

2部
朗読・けい子ちゃん(庄野潤三作)
語り・しのだ妻(五説教より)

12月

★クリスマスお楽しみ・おはなし会(12月18日)

1部
おはなし会
2部
お楽しみ会・プレゼント交換

◆◆今後の開館スケジュール◆◆

- ◆11月は通常 19日(土)、20日(日)
- ◆12月は通常 17日(土)、18日(日)
- ◆新年1月は変則 21日(土)、22日(日)
- ◆2月は通常 18日(土)、19日(日)
- ◆3月は変則 24日(土)25日(日)
- ◆4月は通常 14日(土)、15日(日)

※文庫の時間：土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時
※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。
午前10:30~11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
開館土曜日 11:00~13:00

連絡先：沙羅の樹文庫 電話 0557-51-3737

沙羅の樹文庫だより

ハロウィーンだよ！
魔女やゴブリンになって
楽しもう！



おばけやしき行 ゆうれい列車が文庫を走ってるよ！

おひさま

げんかんをあげたら
おひさまがおくちに はいってきたよ
すっぱくて おいしいよ (年長さん)

お月様の光の道

海に お月様の光がうつって 道ができた
光の道は どこまでも続く
お月様へ のぼって行けそう
きれいな 光の道 (小4さん)

長田弘選【202人の子どもたち】より

生きてる喜びを!

新しく入った子どもの本

絵本：『ことばメガネ』（アーサー・ビナード文 古川タク絵 大月書店）『ここが家だーベン・シャーンの第五福竜丸』（ベン・シャーン絵 アーサー・ビナード文・構成 集英社）『よるのえほん』（バーバラ&エド・バリー作 木坂涼訳 あすなる書房）『ヨセフのだいじなコート』（シムズ・タバック作 木坂涼訳 フレーベル館）『ほんとうのサーカス』（ミッシェル・ダムヤン文 ギアン・カスティ絵 アーサー・ビナード訳 B.L.出版）『どうぶつ どうして どんどんと』（マイケル・フォアマンさく アーサー・ビナードやく 岩崎書店）

新刊絵本（日本）：『なんとなく』（五味太郎作 絵本館）『にこにこかぼちゃ』（安野光雅さく 童話屋）『ぼくがきょうりゅうだったとき』（まつおかただひで作 ポプラ社）『おおきな けやき』（林木林作 広野多可子絵 すずき出版）『ふたりはめいたんてい？』（さこももみ作 アリス館）『やっぺはあ！希望の光』（石山誠文・絵）『しにがみとおばあさん』（鎌田暢子ぶん・え 大日本図書）『おたすけこびとのまいごさがし』（なかがわちひろ文 コヨセ・ジュンジ絵 徳間書店）『空海』（梅田喜代志作 PHP研究所）『昆虫としたしむ 12 か月』（今森光彦著 アリス館）『和の行事えほん 秋と冬の巻』（高野紀子作 あすなる書房）『みつけよう！あき』（ビーゲンセン作 永井郁子絵 絵本塾出版）

新刊絵本（外国）：『たくさんのドア』（アリスン・マギー作 ユ・テウン絵 なかがわちひろ訳 主婦の友社）『ローズの庭』（ピーター・レイノルズ作 かとうりつこ訳 主婦の友社）『ねこのいえ』（マルシャーク文 ユーリ・ワスネツォフ絵 片岡みい子訳 平凡社）『ねずみのへやもありません』（カイル・ミューバーン作 フレヤ・ブラックウッド絵 角田光代訳 岩崎書店）『あくびばかりしていたおひめさま』（カルメン・ヒル文 エレナ・オドリオゾーナ絵 宇野和美訳 光村教育図書）『ロージーのモンスターたいじ』（フィリップ・ヴェヒター作 酒寄進一訳 ひさかたチャイルド）『メルローズとクロック きょうはさいこうのたんじょうび』（エマ・クラークさく たなかまや訳 評論社）『マグナス、マクス、なんでもはかります』（ペリー文 シンドラー絵 福本友美子訳 光村教育図書）『きつねと私の12か月』（リュック・ジャケ原作 フレデリック・マンソ絵 さくらゆき訳 そうえん社）『元素図鑑 宇宙は92この元素でできている』（エイドリアン・ディンクル著 主婦の友社）

新刊読み物：『森のおくの小さな物語』（林原玉枝作 はらだたけひで絵 富山房インターナショナル）『宇宙のはてから宝物』（井上林子作 こみねゆら絵 文研出版）『ここからどこへ』（谷川俊太郎作 和田誠絵 角川学芸出版）

『ダーウィンと出会った夏』（ジャクリーヌ・ケリー作 斎藤倫子訳 ほるぷ出版）『はみだしインディアンのホントのホントの物語』（シャーマン・アレクシー作 さくまゆみこ訳 小学館）『グリニッジ大冒険一時がぬすまれた！』（ヴァル・タイラー作 近藤裕子監訳 バベルプレス）『グース・ガルーがちょう番の娘の物語』（シャノン・ヘイル著 中原尚美監訳 バベルプレス）

詩集ほか：『202 人の子どもたち』（長田弘選 中央公論新社）『目であるく、かたちをきく、さわってみる』（マーシャ・ブラウン文と写真 谷川俊太郎訳 湊の人）『死の授業』（新井満作 講談社）

新しく入った岩波少年文庫：

『注文の多い料理店』『風の又三郎』『銀河鉄道の夜』（宮沢賢治作）

『ツバメ号とアマゾン号 上・下』（ランサム作 神宮輝夫訳）『ともしびをかかげて 上・下』（サトクリフ作 猪熊葉子訳）『消えた王子 上・下』（バーネット作 中村妙子訳）

『アーベルチェの冒険』（シュミット作 西村由美訳）『りこうすぎた王子』（ラング作 福本友美子訳）

『土曜日はおたのしみ』（エンライト作 谷口由美子訳）『青矢号』（ロダーリ作 関口英子訳）

『8月の暑さのなかでーホラー短編集』（金原瑞人編訳）

♪ 子どもも大人も世代を超えて読み継がれてきた本を文庫本で読もう！♪

藤田浩子のおはなしの本：

『かたれやまんば 第5集』『かたれやまんば 番外編1・2』（藤田浩子の語りを聞く会）

『あそべやまんば』（むかしあそびの会）

『馬鹿の鏡』『女の底力』（小林恭子絵 一声社）
☆幼いころ聴いた福島の話の数々。かたれやまんばは第4集まですでに在庫しています。大人も読んで笑ってください。

新しく入った大人の本

フィクション：『マスカレード・ホテル』（東野圭吾著 集英社 11）『笑い三年、泣き三月』（木内昇著 文藝春秋）

評論：『作家のへその緒』（池内紀著 新潮社）

詩集ほか：『ある日』『どこへ』（木坂涼著 思潮社）『釣り上げては』（アーサー・ビナード著 思潮社）

『雨ニモマケズ風ニモマケズー宮沢賢治の言葉』（石幹太編 求龍堂）『宮沢賢治詩集』（谷川徹三編 岩波文庫）

文庫：『おまえさん 上・下』（宮部みゆき著 講談社文庫）

『乱紋 上・下』（永井路子著 文春文庫）※寄贈

ノンフィクション：『悲しみにある者』（ジョン・ディデオ著 池田年穂訳 慶応義塾大学出版会 11）

『思えばいとや“出たとこ勝負”』（小沢昭一著 東京新聞）『日本人の愛したことば』（中西進著 東京書籍）『解病』（南和友著 アチーブメント出版）『原発のない世界へ』（小出裕章著 筑摩書房）『超快速勉強法』（庵谷賢一・安田史朗著 すばる舎リンケージ）

『イスラム飲酒旅行』（高野秀行著 森清写真 扶桑社）

『雪男は向こうからやってきた』（角幡唯介著 集英社）

『うなドンー南の島によるり旅』（青山潤著 講談社）

※上記3冊寄贈

新書：『あなたは誰？ 私はここにいる』（姜尚中著 集英社新書）『知的余生の方法』（渡部昇一著 新潮新書）『老後の生活破綻』（西垣千春著 中公新書）『100歳までボケない101の方法』（白澤卓二著 文春新書）

前回に引き続きの寄贈本：

『父の戦地』（北原亜以子著 新潮社）『チーズはどこへ消えた』（スペンサー・ジョンソン著 扶桑社）『夢を与える』（綿矢りさ著 河出書房新社）『ニシノユキヒコの恋と冒険』（川上弘美著 新潮社）『うらなり』（小林信彦著 文藝春秋）『あるキング』（伊坂幸太郎著 徳間書店）『イタリアのたびから』（多田富雄著 誠信書房）『八十八歳の抵抗』（柏原幸子著 文藝社）『いいもの見つけた』（高峰秀子著 潮出版社）『夢の砦』（小林信彦著 新潮社）『寺山修司』（三浦雅志著 新書館）『受け月』（伊集院静著 文藝春秋）『ダーウィンに消された男』（ブラックマン著 朝日新聞社）『天武と持続』『もう一つの万葉集』（李寧熙著 文藝春秋）



読んでみませんか！わたしのお薦めの本！

No.2

最近お借りした本についての読後感

2011年10月14日 By 森林浴

「民主と愛国」 小熊英二著 新曜社刊 2002年12月第三版刊

かねてから読まなければと思っていた本。文字通り重い本で、重量 1.3kg、966 ページ、内容も濃く重い。著者は「戦後日本のナショナリズムと「公-おおやけ」にかかわる言説が、敗戦直後から 1970 年代までに、いかに変遷してきたかを検証したもの」と言うが、膨大な資料を読みこなして（引用した資料に関する「注」の記事だけで 120 ページある）、総括した記念碑的な力作である。著者は「戦後」を論ずる多くの論者が実は『戦後の日本』についても、また「戦後民主主義」についても、事実関係をよく調べないままに空虚な議論をしていることが許せず、まずその実態を徹底的に明らかにしようとした。（「敗戦後論」を書いた加藤典洋に対しても事実の読み込みが足りないと批判している。）扱われている知識人は、丸山眞男・大塚久雄・竹内好・坂口安吾・清水幾太郎・福田恒存・小林秀雄・石母田正・吉本隆明・三島由紀夫・小田実・大江健三郎・江藤淳・鶴見俊輔など多数。この中での主役はやはり丸山眞男で、彼は戦後の日本思想界のスーパースターとも言えるかもしれない。鶴見俊輔に対する評価

も高い。（小熊に対しては、『ベ平連』の中心にあった鶴見俊輔や小田実に対する評価が甘いという批判もあるようだ。）

しかし著者は有名知識人だけでなく、草の根の民衆の声もしっかりカバーしている。戦艦武蔵の乗組員だった海軍少年兵、渡辺清の敗戦直後の日記とか、1952年に静岡県上野村で起きた「村八分事件」の犠牲者となった少女、石川さつきの学内雑誌への投書などである。

本書は毎日出版文化賞、大仏次郎論壇賞などを受賞した。以前私が本紙に読書感想を書かしていただいたジョン・ダワーの『敗北を抱きしめて』とともに「戦後」を過不足なく精密に総括した重要かつ貴重な本と言えるのではないかな。

★★) * *) * *) **

『天才少年ダンボール博士の日記 宇宙船を

つくれ!』を読んで

秋吉 崇亘

ぼくがこの本で読書感想文を書こうと思った理由は、題名と絵を見たときにおもしろそうだなと思ったからです。

この本のあらすじは、アレックスという男の子が弟のジョナサンがきらいで、宇宙船を作らずと遠くの星に家出をする計画を立てるというお話です。

この本の主人公のアレックスは、すごいところが二つあります。

一つ目は、ロケットの設計図をかく時間と、作る時

間を合わせて二時間でできることと、二つ目は、部品のほとんどをダンボールで作ったということです。

この本のおもしろいところは、弟を犬やようかいにたとえたり、ぞうしょくコピー機とかミクロはかい機などを作るところと、アレックスとジョナサンがけんかしている場面と、アレックスがジョナサンに悪口を言う場面、ほんの少しも口をとじていられないとか、一日中質問をするとか、ぶきようだとか言って、そのときはあいつの口は脳にあいた穴だとかにたとえたりするところがおもしろいです。

とてもおもしろい本なので、ぜひ読んでみてください。

（フランク・アッシュ 作 白井澄子 訳 矢島眞澄 絵 ポプラ社）

✿ ✿✿ ✿✿ ✿✿ ✿✿ ✿

『番ねずみのヤカちゃん』をよみました！

秋吉 海帆

ドドさんという人の家のかべのすきまに、おかあさんねずみと、四ひきの子ねずみがすんでいました。子ねずみたちのうち、三びきはおとなしくてしずかな子でした。でも、四ひきめは「やかましやのヤカちゃん」とよばれていました。どうしてこんな名前がついたのかはこの話をよめばすぐわかります。

わたしはこの本を読んで三つのことを思いました。一つめは、なぜすえっただけが声の大きいのかなと思いました。なぜかという、一番目の子ねずみがしゃべっても声は小さいのですが、ヤカちゃんがしゃべったら声が大きくなるからです。

二つめは、なぜねずみがいることをその家の人は分からなかったのかなと思いました。りゆうは、ヤカちゃんが大きな声でしゃべっても、ぜんぜん気づかなかったからです。

三つめは、家の人がねずみとりを買ってきたりしたのにつかまらなかったの、かしこいなと思いました。

この本はおもしろいので、みなさんもぜひ読んでみてください。

(リチャード・ウィルバー 作 松岡享子 訳 大社玲子 絵 福音館書店)

『下町ロケット』(池井戸潤著 小学館)

なんて爽快で痛快なファンタジーなのでしょう。その特許がなければロケットは飛ばない——。大田区の町工場が取得した最先端特許をめぐる、中小企業 v s 大企業の熱い戦い!

かつて研究者としてロケット開発に携わっていた佃航平は、打ち上げ失敗の責任を取って研究者の道を辞し、いまは親の跡を継いで従業員 200 人の小さな会社を経営していた。

中小企業の悲哀を味わいつつも、日々奮闘している佃のもとに、ある日一通の訴状が届く。

かつてロケットエンジンに夢を馳せた佃の、そして男たちの意地とプライドを賭した戦いがここにある。

(田畑 木利子)

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

『月のしずく』(浅田次郎著) (文春文庫)

母を亡くし荷役をしている主人公がひよんな事から美しい若い女性を家に泊める事になる。主人公の無器用で心やさしさにほろっとなる。こんな無欲な人今どき居ない。そこが浅田次郎の本来持っている良さかしら。

『壬生義士伝』(浅田次郎著 文芸春秋)

時代小説は読まず嫌いだったけれど会員の K さんにすすめられて一大決心で読んでみました。本の初端から切腹で始まる。想像力を押えて読んでいくと名も

無い一人の貧乏ざむらいの家族を思う気持ちが、方言の持つ言葉のやさしさ、味と共に何とも言えない気持ち良さと読み進む事ができる。本当の正義、武士としての義とは何か読み手に訴えてくる。何度も何度も泣いてしまった。そして泣かせるだけでなく小説の終りが謎めいて余韻を残している。浅田次郎ってうまい!

『ピーティ』(ベン・マイケルセン著 ずずき出版)

アメリカのある小都市に障害を持って生まれたピーティが、長い時間をかけて幸せになっていく物語。障害を持つことにより、自分だけでなく廻りの人達をも幸せにする。

『山のトムさん』(石井桃子著) (福音館文庫)

終戦後北国の山あいに移り住んだ石井桃子さんの半自伝的物語。ねずみの被害に会い飼うことになった子猫の成長物語です。猫を飼っている人なら「ほんと、ほんと、そうそうこういうところある」とほほえましくなり、飼ったことのない人は「エーッ猫ってそんな犬みたいなのところあるの?」猫も人間と同じ 10 猫 10 色で面白いのです。

『昭和二十年夏子供たちが見た日本』(梯久美子著 角川書店)

この本は同作者の「昭和二十年夏僕は兵士だった」に続いて書かれたもので著名な 10 人の方が終戦の夏をどの様に迎えたのかのインタビューで、10 人の方々がそれぞれの両親の考え方、育った環境で違うので興味深かった。

(森川 理恵)

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

『小さいうち』(中島京子著 文芸春秋 2010)

最初は戦前の山の手のお家の生活ぶりで、何が面白いの? と思っているうちに、最後に「あれあれ」とすべてが解き明かされて、「ああ、そうでしたか」と納得しました。

『フェドーラばあさんおおよわり』(K・チュコフスキー作 偕成社 2010)

五七調の口調も滑らかに、おばあさんが怠けていたので、家中の食器も家具も逃げ出していくのを、おばあさんが心を入れ替えて呼び戻すという話。私のことみたいで身につまされました。絵がすてきです。

『散るぞ悲しき一硫黄島総指揮官・栗林忠信』(梯久美子著 新潮社 2006)

本土防衛の最前線となった硫黄島を任された陸軍中将・栗林の家族を思う細やかな愛、情と敵をどう撃つかの戦場での任務の残酷さ。胸が痛いノンフィクション。澤地久枝さんに続くノンフィクション作家がでたとうれしかった。この後、終戦三部作「昭和 20 年夏僕は兵士だった」「昭和 20 年夏女たちの戦争」「昭和 20 年夏子供達が見た日本」が続きました。

『ピーティ』(ベン・マイケルセン作 千葉茂樹訳 ずずき出版 2010)

脳性まひのために知的障害者と誤解されて一生を施設で過ごす人の話です。様々な出会いが彼の生活を豊かなものにする。すばらしい人たちがいることに勇気付けられるし、私たちの気づきにくい偏見に気づかせてくれます。

(中西 景子)

♥偶然 2 人の人から同じおすすめ本が出ました。これはもう、読んでみなくっちゃ、ですね! ♥